

【数字を読み解く】753万人～宿泊者数、「観光県」の証し～

〈2020/4/3 大分合同新聞掲載〉

数字は観光庁が発表した「宿泊旅行統計調査」にある、2019年の大分県の宿泊者数(速報値)だ。都道府県別にみると、大分県は全国で24番目と中位だが、人口当たりの宿泊者数では7番目、九州内でトップ水準になる。当地が「観光県」であることを確認できる数字といえる。

昨年の宿泊者数を18年と比較すると、全国が1.0%増加したのに対し、大分県は3.1%減少した。国内客は、全国が減少(マイナス0.4%)する中、大分県は小幅増加(プラス0.3%)し、健闘している。ただ、外国人客が、全国的に増加(プラス7.6%)したのに、大分県は大幅に減少(マイナス18.1%)し、全体を押し下げる結果となった。

大分県を訪れた外国人客を国・地域別にみると、ラグビーW杯の効果もあって欧米豪からの宿泊客が2.4倍に増加したほか、中国、台湾、香港からの客が4.1%増えた。ただ、韓国人客が大幅に減少(マイナス37.3%)したため、全体では18年を下回った。18年に外国人客の約6割を占めていた韓国人客は、19年は約4割まで低下している。

今年1月末以降、追い打ちをかけるように、新型コロナウイルスの拡大で、県内の宿泊施設から、中国人客などの予約キャンセル発生や、旅行自粛による国内客減少の影響を指摘する声が幅広く聞かれる。こうした動きが県内経済に及ぼす影響について、注意深くみていく必要がある。

(日本銀行大分支店)